

せったん

北摂・丹波支部

第168号 2017年3月15日

● 発 兵庫県保険医協会北摂・丹波支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
● 行 TEL078-393-1801 FAX 078-393-1802



会員懇談会「やる気を引き出す雇用管理」

職場環境を良くして 職員のやる気引き出そう

北摂・丹波支部は1月21日、三田市・キッピーモールで会員懇談会「やる気を引き出す雇用管理」を開催した。昨年12月に発行された保団連『医院経営と雇用管理』をテキストに、同本の監修を行った桂労務社会保険総合事務所所長の桂好志郎社会保険労務士を講師に招き、12人の医師・歯科医師らが参加。武本淑子支部幹事が司会を務めた。



桂氏はまず、雇用管理の前提となる雇用関連法制の遵守を訴えた。その上で、働き手が職場で最も重視するポイントとして「休暇のとりやすさ」や「労働時間

桂氏はまず、雇用管理の前提となる雇用関連法制の遵守を訴えた。その上で、働き手が職場で最も重視するポイントとして「休暇のとりやすさ」や「労働時間

の適正さ」など、長時間労働の解消を希望する声が多いという調査結果を紹介し、「採用する前に、魅力ある職場環境を整備し、分かりやすく伝えることが重要」と強調した。

有給休暇の付与に関して、計画的付与など、医院経営に大きな支障をきたさず、かつスタッフのやる気を引き出せるような休暇の取り方を、具体例を交えつつ解説した。

さらに桂氏は、分かりやすく納得できる賃金制度にする事で、職員に不満がたまりにくく、安定的な雇用につなげることができるとした。

最後に職員の退職時に注意すべきポイントについても分かりやすく解説を行った。

「篠山市の医療をよくする会」が 篠山市と懇談 市民が安心して 医療が受けられる市に

北摂・丹波支部が参加する「篠山の医療をよくする会」は1月18日、地域医療構想や兵庫医科大学ささやま医療センターの存続問題などについて、篠山市と懇談を行った。篠山市から、保健福祉部の倉剛史部長ら



医療提供体制の改善求め交渉を行った

2人が、会からは4人が出席した。会から地域医療構想について、県が丹波圏域全体の病床削減を進めるとともに急性期病床の回復期への転換、早期退院を進める方針を打ち出したことに対し、篠山市の対応について質問。市は、各病院が判断すべきことで、市として意見

☆北摂・丹波支部ニュースへの

投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せ下さい。



TEL 078-393-1807 y / FAX 078-393-1820

e-mail sanda-a@doc-net.or.jp 担当；三田まで

支部会員の先生方へ 4月より春の共済普及月間が始まります

未入会のお知り合いの先生、ご子弟に入会を是非おすすめください

できる場合はほとんどないことを明らかにし、「政府は病院から在宅へ移行せよというが、在宅を行う医療機関は篠山市では少なく、医師も高齢化しており、今後在宅がどうなるのかも含めて不安だ」とした。

兵庫医大ささやま医療センターについて、市は、同病院が救急搬送などで大きく寄与している事実を示し、同病院に対する補助金を増額するなど、病院存続のため、全力で交渉を行うとした。

会からは、市民が安心して医療・介護を受けられる街にするため、いっそう対策を行うよう、要請した。

会では今後とも篠山市への社会保障の拡充を求める要請活動を続けていく。

兵庫県保険医協会 北摂・丹波支部 接遇研修会(医療安全対策研修会)のご案内

ケーススタディで磨く接遇スキル

～窓口対応とクレーム対応のポイント、 高齢者への接遇を含めて～

◆日時 丹波市会場：4月22日(土) 午後2時30分～4時30分

三田市会場：5月20日(土) 午後2時30分～4時30分

◆会場 丹波市会場：丹波市柏原住民センター 2階会議室

(丹波市柏原町柏原 5528 電話 079-572-2552 駐車場あり)

三田市会場：三田総合福祉保健センター 1階研修室

(三田市川除 675 番地 電話 079-559-5700 駐車場あり)

◆講師 マネジメントコンサルタント 松田幸子 先生

◆定員 各会場とも35人(定員になり次第締切)

◆参加費 1,000円(受講された方には受講証を発行します)

医療機関では、患者さんが安心して頼ることのできる職員とのコミュニケーションが求められており、接遇の質の向上が医療への信頼と医院の印象を一層高めることにつながります。北摂・丹波支部では、新人スタッフだけでなく、ベテランの方も含めた職員教育の一環として接遇研修会を開催し、好評をいただいています。

今回の接遇研修会は、「ケーススタディで磨く接遇スキル～窓口対応とクレーム対応のポイント、高齢者への接遇を含めて～」をテーマに、接遇ベテラン講師の松田幸子先生に講演いただきます。今回は、これまでの研修会で寄せられたアンケート結果をもとにご要望の声が多かった、接遇の基本、クレームまたはクレームとまではいかないような患者への対応、高齢の患者さんへの接遇についてご講演いただきます。受講者には年2回の研修実施が求められている医療安全管理研修会の一環のため、受講証を発行させていただきます。ぜひご参加下さい。

お問合わせは協会事務局・石本、三田(TEL078-393-1807・9)まで

FAX 078-393-1802 北摂・丹波支部「接遇研修会」参加申込書

地区[市] 医療機関名[] TEL[]

参加者氏名	職種	経験年数	受講日(○印)
		年 月	4/22 ・ 5/20
		年 月	4/22 ・ 5/20
		年 月	4/22 ・ 5/20

《講師への質問がありましたら記入下さい》

政府は国会に介護保険法改定案などを提出した。その中身は、70歳以上の高齢者の窓口負担限度額の引き上げや65歳以上の入院患者の光熱水費負担の引き上げ、後期高齢者の保険料引き上げ、介護保険サービス利用料の引き上げなど、医療や介護を利用する人の負担の引き上げが目白押し。協会は政府の具体的な法案

提出を受け、医療・介護の負担増中止を求める新たな請願署名に3月から取り組んでいる。3万筆、会員参加率10%を目標に取り組んでおり、全国目標の10分の1を担う。昨年の署名では、北摂・丹波支部で33医療機関393筆を集めた。ぜひ、多くの先生方の協力をお願いしたい。期間は3月から5月末まで。医療機関にかかりたくてもかかれない、介護を受けたくても受けられない。今でも受診抑制が問題になる中、これ以上そうした人を増やさないためにぜひ、ご協力いただきたい。また、この問題を多くの患者さんに知ってもらうため「高齢者泣かせの医療改革」をテーマに景品付きクイズチラシにも取り組んでいる。これは、四つのクイズに、ヒントを参考に答えてもらいながら、負担増計

目標3万筆 5月末まで

心配です！さらなる負担増

署名・クイズチラシにご協力を

面をこのまま進めていいのか考えてもらうことが狙い。クイズチラシは、会員医療機関の待合室などで患者さんに配布していただき、回収していただく方式となっている。取り組んだ会員にはもれなく図書カードを、さらに「30オーバー賞」として、30通以上の応募があった会員の中から10医療機関に抽選で2万円の旅行券をプレゼントする。

署名運動とクイズチラシ企画に多くの先生方の協力をお願いしたい。クイズチラシ企画のグッズや署名用紙の追加注文は、電話078-393-1807まで。



◀リーフレット

▲景品付きクイズチラシ